

第3回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の振り返り

1 検討体制



2 第3回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の振り返り

2.1 開催概要

日時	令和6年12月6日(火) 14:00
場所	名護市産業支援センター 2F 会議室
議事次第	1 開会 2 議事 (1) 第2回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の振り返り (2) 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告 (3) 護市中心市街地のまちづくりの考え方・方向性 -コンセプトとゾーニング -防災の考え方 -にぎわいの創出(シンボルロードのあり方)



▲当日の様子

2.2 議事要旨

<前回の主な指摘と対応事項>

赤字：今回の協議会での具体的な対応

1. 賑わい・ゾーニング等

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> 資料 3-2p.16 の<u>シンボルロードのパス</u>について、近代的な印象が強く、資料 3-1 ゾーニングの考え方とイメージが合わない。 オープンスペース等がないと街側に人が流れにくい。シンボルロードでは、子供たちが楽しめること、例えば水が流れる通り等、魅力ある空間にしてほしい。 街路樹等の植物が非常に多い印象を受けた。現状、街路樹の維持管理に労力やコストがかかっているため、街路樹の必要性や維持管理しやすい工夫などを検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の問題・課題を踏まえ街路樹の在り方を今後検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 車いすや障害を持った方へのデザインも予め考えていく必要。さくら祭りでの実証実験では、どんなものがデバインドになるか確認することも有効。 	<ul style="list-style-type: none"> ハード面での課題を抽出できるよう留意し、実証実験を実施する。 ⇒実証実験の結果を報告
<ul style="list-style-type: none"> シンボルロードのイメージは出来たが、その後背地はどのようなイメージか。人や賑わいが波及する工夫をすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> シンボルロード後背地への賑わいの波及に向け、まちの在り方・必要機能を検討する。 ⇒本協議会で引き続き議論
<ul style="list-style-type: none"> 観光振興計画との連携が重要。自然等、名護市ならではの観光資源を活かしつつ、新たに整備する「まち」自体が誘客のコンテンツになるとよい。税収が増え、維持管理にも回せるような好循環になることが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 名護市観光振興基本計画と連携し、観光の視点から目的地化に向けた工夫や必要機能を検討する。 ⇒観光振興計画を踏まえ、交通ターミナルに配置する機能やまちへの賑わい波及のイメージを示す
<ul style="list-style-type: none"> 特に子育て世代にとって緑地は非常に重要な機能だが、現状ほとんどない状況である。 地域では小中学生が減少している実態がある。子供たち、若い世代が住みやすい環境にしていく必要がある。保育所や子育て支援センター等、子育て世帯が来たくするような場所にデザインすることが極めて重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地やイベント広場等の在り方や配置を検討する。 子育て世代の住環境の視点からもまちの在り方・必要機能等を検討する。 ⇒考え方として緑地やイベント施設、子育て世代の観点を示す
<ul style="list-style-type: none"> 雨天でもイベントができる空間等、天候に左右されず使いやすい設計が必要。 	
<ul style="list-style-type: none"> 「名護らしさ」は、名護市民の中でもそれぞれイメージは異なるため難しいが、ひとつに名護大通り等のレトロ感があると考える。 コストはかかるが赤瓦等、名護らしさは集客力の向上につながる。 住みやすいのも名護の良さの一つ。海があり、山がある。若い世代が、「名護に戻り仕事をしよう」と思ってもらえるのが理想。居心地の良さを感じるまちになるのが最も重要。 名護らしさをコンセプトやデザインに落とし込むのは難しい。例えば写真コンテストで、市民から名護の「好きなところ」を集め、デザインへのヒントを得ていくというのも一案。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、パスや VR 等でイメージを共有しつつ、課題認識や将来像の意見交換を実施する。 「名護らしさ」について広く意見が収集できるよう方法を検討する。 ⇒本協議会で引き続き議論

2. 防災

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画、災害発生時の物流計画、観光危機管理計画等を踏まえ、名護市の防災上のウィークポイントを把握しつつ、今後のまちづくりや交通ターミナルとして担保すべき機能を考えることが重要。 ・津波の時に海側に逃げる人はいない。現状は漁港から名護小学校まで避難するのに約 1.3km で 30 分かかる。9 時頃には 100 人近く働いており、昼は食堂含め 250 人程いるため、近くに避難できる場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名護市の防災担当とも連携し、現状の課題や考え方等を整理する。 ⇒指摘を踏まえ前回資料を深度化（避難人数、タイムライン等）

3. 交通ターミナルの機能配置

指摘	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 p.9 以降の機能配置について、同じ機能を国道の両側に配置すると観光客は分かりにくく、使いにくくなることが懸念される。 ・資料 2 p.10 交流機能の施設配置において、漁港側に配置する案では、市街地との一体感が生まれにくい。まちづくりを漁港側と市街地側で一体的に賑わい創出するため、交流機能は市街地側にあるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ等での意見も踏まえ、各施設配置を検討する。 ⇒名護市中心市街地まちづくりの視点から、交流・防災機能として必要な具体的な施設等の案を提示

赤字：今回の協議会での具体的な対応